

久留米

〔March 22, 2017〕

高専通信

第84号

久留米工業高等専門学校

〒830-8555 久留米市小森野1-1-1

TEL:0942-35-9300

<http://www.kurume-nct.ac.jp/>久留米工業高等専門学校
校長 三川 譲二卒業生・修了生に贈ることば
「実践と共に理論も大切」

本科卒業生・専攻科修了生の皆さん、ご卒業・修了おめでとうございます。卒業生・修了生の皆さんは、「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた、社会に貢献できる技術者の育成」という本校の教育理念を立派に体得されて、卒業・修了というこの佳き日を迎えられました。皆さんのこれまでのご研鑽とそれを支えてこられました保護者の皆様のご篤志に深く敬意を表します。

高専教育の特長は、実践を重視した工学教育にあります。高専教育は、実践（実験・実習・演習）から理論（講義）へという教育方法論に基づいて行われています。いわば、「手」で始まり「頭」でまとめる教育であります。実践をエンジニアリング、理論をサイエンス、と言い換えることも可能かと思えます。そして、実践と理論をスパイラルアップ（善循環）させながら創造性を育んでいく。そこが、ものづくり教育における大学工学部や工業系大学との大きな差異であり、優位性でもあります。また、それゆに、高専はこれまで数多くの実践的でかつ創造性豊かなエンジニアを輩出し続けてきました。

しかし、ご卒業・修了に際して、実践と共に理論も同じくらい大切であることを申し上げたいと思います。

久留米の誇るべき偉人の一人に、江戸時代の末期から明治の初期に活躍された、“からくり儀右衛門”こと、田中久重さんがおられます。田中久重さんは、東芝の創業者としても知られています。この方は、単なる職人や技術者ではありませんでした。田中久重さんは、からくり人形を製作したり、井上伝さんの依頼を受けて久留米餅の機織り技術を改良したり、圧搾空気による給油式の灯明である無尽灯や一度巻けば一年間も動き続けるぜんまい式時計の万年自鳴鐘を発明したりと、生涯数え切れないほどたくさんものづくりを行ったことで有名ですが、その一方で、天文学を修めたり、蘭学を学び西洋の自然科学をも吸収していました。そうでなければ、佐賀藩や幕府のために蒸気船や

通信機を製作したり、久留米藩のために製造所・製鉄所を作ったりすることはできなかったと思います。

世界のHondaの創業者本田宗一郎さんについても同じことが言えます。戦前の1939（昭和14）年、本田宗一郎さんは、故郷の浜松で東海精機（株）という会社を立ち上げ、自動車修理工場から転じてピストンリングの製造を始めました。しかし、その製造は、思うほど簡単ではありませんでした。後に日本人で初めてアメリカの「自動車殿堂」入りを果たす本田宗一郎さんですが、その当時のことを「一生のうちで最も精魂をつくし、夜を日に継いで苦吟し続けた」と回顧されています。

50人の社員を抱え、「絶体絶命のピンチ」に追い込まれた本田宗一郎さんは、自分の理論の不足に気づきます。

「こう思うようにいかないのは、私に鋳物の基礎知識が欠けているためだと気がついたのはそのときだった。…そこでやはり大きく飛躍するには根本的に基礎からやり直すべきだと思い、当時の校長安達先生にお願いして、浜松高工（現静岡大学工学部）の聴講生にしてもらった。…このときの勉強が大いに役に立ち、物を考える際とか技術上の疑問点を問いただすときなどの基礎となった」と自伝に記されています（『本田宗一郎 夢を力に 私の履歴書』）。

本田宗一郎さんが聴講された浜松高工（旧制浜松高等工業学校）が本校の前身である久留米高等工業学校と同じ学校種であったことはとても興味深いことであります。

田中久重さんの生涯や本田宗一郎さんの体験は、実践と理論の双方を血肉化してものづくりに打ち込むことの重要性を教えてくれています。卒業生・修了生の皆さん、これからは実践（エンジニアリング）と共に理論（サイエンス）をも大切に学び続け、エンジニアとして日本で、そして世界で大いに活躍されていかれることを心より祈念いたします。

卒業生の言葉

青春

機械工学科 5年 坂田 篤哉

「高専って5年もあるのか…長いな…」

そう思っていた入学当初から今にいたるまでの5年間、ほんとにあっという間でした。でもゆっくり振り返るとこの5年間は、後にも先にもない密度の濃い時間だったなと思います。特に、自分とはどういう人間なのか、を考える期間でした。

久留米高専では多種多様かつ超個性的な人たちに会うことができました。クラスメイトに、先生、52期のみんな、所属していた軽音部・実行委員会の先輩や後輩……とにかく毎日が刺激的でした。しかし、「じゃあ自分にはどんな魅力があるのか？みんなに友達と思ってもらえてるのか？」と悩むようになりしました。それはきっと、同級生がより魅力的になったり、後輩ができて先輩になったりして、「魅力的な人間でいなくちゃいけない」と背負いこんでしまったからだと思います。自分という人間がどういう人間なのか分からなくなりました。そのことを隠すために、表では変に見栄や虚勢をはる自分がいました。その悩みをモヤモヤと抱えたまま過ごしていました。しかし、5年生になった時くらいに、ようやく答えを出すことができたような気がしました。それは、僕は「普通の人」だということです。秀でた運動能力や頭脳があるわけでもない、特技もない。そのことを受け入れると、自分を大きく見せようとしたり、他人に必要以上に媚びたりすることがバカらしくなり、愚直で素直にしよう、と思えるようになりしました。受け入れられるようになったのは自分を認めてくれた友達のおかげであり、間違いなく成長であると自分では感じています。また、そうなれたのも、悩んだ日々があり、それを支えてくれた友達がいたからです。

結局僕が言いたいことは、僕はそんな友達を持ってよかった、そんな友達と苦楽を共にし青春できて本当によかった、ということです。おかげでとにかく楽しい5年間でした！（原稿を書いている今もクラスの友達とBBQをしています。これから温泉に行きます。）

これからもこの関係が続けば、それは最高に幸せなことだと思います。

最後に、ご指導いただいた教員の皆様、最強な52期生のみんな、優しい後輩たち、ご指導いただいた教員の皆様、5年間通わせてくれた尊敬する両親には感謝の気持ちでいっぱいです、本当にありがとうございました。

では最後に……

「高専健児、元気あるか?！」

私の高専生活

電気電子工学科 5年 久保山 朋美

長く感じた5年という月日は、今こうして振り返ってみればあっという間だったような気がします。

5年前の春、周りに知り合いがいない状態で高専に入学した私は、周りに馴染めるのか、友達はできるのか、たくさんの不安でいっぱいでした。しかし、そんな心配は杞憂で、すぐに他学科にも友達ができました。それからたくさんの出会いがあり、先輩・後輩含め、たくさんの素敵な縁に恵まれ、様々な経験をさせていただきました。

この5年間、苦労もありましたが、やはり楽しかったことの方が多かったように感じます。

私の周りには、高専に来てよかった、という人ばかりではないような気がします。ですが私は、高専に来てよかったと感じています。

高専に来てよかったと感じた思い出の一つに、工場見学旅行があります。旅程の中に飛行機の整備工場の見学がありました。私は飛行機が好きなので、巨大な整備中の機体や、離着陸の瞬間を間近で見ることができて、とても幸せでした。また、4泊5日もの間のほとんどをクラスメイトと共にするという経験も面白かったです。きっと、普通高校に行っていたら経験できなかったことだと思います。

「夢は願えば叶う」といったようなことをいう人が世の中にはたくさんいると思います。私も本当にその通りだと思っています。何かを実現させるにあたって、もちろん努力も必要だと思いますが、一番は思いの強さだと思います。思いが強ければ強いほど行動力がわきますし、努力しようという気持ちも生まれると思います。

在学生のみなさんには、卒業する時に悔いが無いように、強い意志を持って一つでも多くの夢を叶えて高専を卒業していただきたいと思います。頑張ってください。

最後になりますが、この5年間たくさんの先生方にお世話になりました。ありがとうございました。また両親にもたくさん迷惑をかけました。支えてくれて本当にありがとうございます。52期電気でした、クラスのみなさんありがとうございました。



卒業生の言葉

五年の足跡を振り返ると

制御情報工学科 5年 石橋 龍人

思い返せば、あっという間の五年間だった。卒業まであとわずかな時間を残すばかりとなった今でさえ、入学から五年の月日が経った実感が無い。

入学したばかりの頃、人見知りの激しい人が多かった私たちのクラスでは、昼休みには全員が前を向いたまま黙々と食事をしていました。他のクラスが皆で仲良く昼食をとる中、私の記憶では、一か月ほどはこの奇妙な光景が見られたように思う。転機となったのは夜須研修合宿だった。オリエンテーリングやフィールドワークを通じ、一つ屋根の下で一晩を過ごすことで、ようやく友人ができた。卒業後は会う機会は減ってしまうだろうが、この友人たちとは、おそらく一生の付き合いになるのだろう。

友人たちとの思い出は、この五年間で数えきれないほどある。試験に向けて勉強会を開いたり、放課後の教室に残って遊んだり、いろいろなことをした。休日には一緒に天神まで行ってショッピングをしたり、食事や旅行に出かけたり。どれも楽しい思い出で、目を瞑ればあの日の情景が思い出される。

委員会での活動も印象深い。私は4年間、高専祭の実行委員会に参加し、運営に携わった。基本的に学生主体で運営される本校の高専祭は、自身にとって様々な経験と出会いをもたらしてくれた。二か月三か月先を見据えてスケジュールを立てたり、苦労しながらステージや入場ゲートを作ったりした日々は、きっと将来どこかで役に立つだろう。

五年間を過ごしたクラスメイトとの別れは、やはりさみしいものがある。五年という月日を通して、皆のいろいろな一面を知ることができた。普段は真面目な人間が意外な趣味を持っていたり、おとなしそうに見える人が車に乗ると性格が変わってしまったり、強面なイメージの人の趣味がお菓子作りだったり、驚くことも多かった。みんなで体育祭に女装して出演したことは、きっと一生の語り草になるのではないだろうか。

こうしてざっと思い返すだけでも、いろいろなことがあった五年間であった。遠い場所からの進学であったが、久留米高専を選んでよかったと心から思える。あれやこれやとまだまだ語り足りないところではあるが、卒業研究論文の提出締め切りが迫っているため、このあたりで筆をおくことにする。後輩たちからの「卒業おめでとうございます」の言葉を台無しにしないためにも、論文の続きを頑張って書こうと思う。

「我が生涯に一片の悔いなし！！」

生物応用化学科 5年 佐々木 淳成

これは、僕が大好きな漫画「北斗の拳」に登場するラオウの死に際の言葉です。この言葉を聞いた方は「ラオウの人生は充実した幸せなものだったのだろうか」と思われるかもしれませんが、ラオウは愛する人を主人公ケンシロウにとられ、最終的にはケンシロウによって死の淵まで追いつまれています。現代では、一般的に見て、幸せとは言えないでしょう。時は核戦争後の世紀末 199X 年であり、一子相伝の暗殺拳である北斗神拳の伝承者争いの真ただ中であるため、ラオウは一般的だとは言えないかもしれませんが、人の一生、人の幸せは本当に十人十色なんだなぁと感じます。

普段の生活では忘れてしまいがちですが、世紀末霸王とまで言われるラオウでさえ死んだように、生き物はいつか死んでしまいます。極端な話、ずっとゴロゴロしている人も、ずっと遊び続けている人も、70 年も経てば死んでしまいます。死に方や泣いてくれる人の数にこそ違いは出るかもしれませんが、どちらが幸せなのかは僕には分かりません。それぞれ死ぬ前に何を想うのでしょうか。

世のおじさん、おばさん達はよく「あの頃は楽しかったなぁ。」と何十年も前の青春時代に想いを馳せます。「最近、物覚えの悪かけんどんこんいかん」が口癖の世代がいつまでも人生の思い出として持っておくほどの青春時代。死ぬ間際に浮かび上がる楽しかったことはこの時代のことが多いのかもしれませんが。それほどまでに、青春時代は現代人にとってステキでキラキラした時間であり、久留米高専はそれを最大限に楽しむための自由を携えた最高の学校だと思います。

僕の父・母が青春を過ごしてきた時代から現代に掛けて、SNS の普及やモンスターペアレンツの出現等、学生・学校を取り巻く環境も変化し、それに伴ってたくさんの自由が淘汰されてきているようです。久留米高専ほど自由がある学校はだんだん「生きた化石」ようになっていくのではないのでしょうか。よく学生主事の先生がおっしゃっていたように、学生自身が自由を守っていかなければなりません。1～4 年生の皆様は自分の行動に責任を持ちつつ、ハジけつつ、最高の学生生活を謳歌してください。

今、皆様は久留米高専を堪能できているのでしょうか。僕は同性・異性共にたくさんの極上の人間に恵まれ、高専祭やクラスマッチ等のイベントも最高に楽しく、自分の時間もたくさんとれた自由なこの短い5年間は至極だったと思います。皆さまもそれぞれが残り的高専生活を「自由に、自分のために」楽しんでください。

最後に一般科目を担当頂いた先生方、生化学の基礎を叩き込んで下さった生化の先生方に溢れんばかりの感謝を込めて述べさせていただきます。本当に5年間お世話になりました。

久留米高専を卒業するという節目で偉そうにこのような文章を書かせて頂けたことを嬉しく思います。

「我が高専生活に一片の悔いなし！！」

卒業生の言葉

そつぎょうフレンズ

材料工学科 5年 江崎 克紘

気が付けば卒業です。びっくりです。久留米高専での5年間は本当に長いようで短いものでした。思い返すと様々な行事が印象に残っています。高専大会、クラスマッチ、高専祭、専攻科受験、高専シンポジウムでの発表など、挙げるときりがありませんが、どれをとっても良い思い出です。高専での5年間は私にとってとても充実したものでした。しかし、こうしておけば良かったと思うことも多々あります。卒業を目前にして、在校生の皆さんにこうしておけば良かったなと思うことを少し伝えたいと思います。

・余裕を持って取り組む

よく「予定は未定」などと言われますが、4, 5年生でこれを痛感することになります。例えば、専攻科受験。予定では4年生の1月にTOEICで500点を取り、春休みに数学を、5年生の4月から受験日まで専門科目を勉強することにしていました。が、やはり「予定は未定」でした。1月のTOEICでは試験中に爆睡して275点、春休みは何かと外せない行事が多く勉強ができない。というわけで、私の本格的な受験勉強は4月から始まりました。結局、専門科目は勉強が行き届かず、いわゆるノー勉での受験となりました。もっと早く取りかかり、余裕を持っていればこんなことにはならなかったと思います。

・今できる力を100%出す

これは主に部活でのことですが、私はバドミントン部に所属していました。部活に行ってもただただ練習をこなしていくだけで、どこか力を抜いてしまっていました。何百時間にも及んだ練習でしたが、もっと全力で行っていればもう少し上達できたのではないかと今は少し後悔しています。

伝えたいことはまだまだありますが、文字数の制限があるため、これくらいにしておきます。今後、皆さんも心の片隅に入れておいてもらえれば幸いです。

最後に、担任としてお世話になった高橋先生、篠島先生、岩田先生をはじめ、卒業研究を指導して頂いた奥山先生、山崎先生、さらに5年間バドミントンを指導して頂いたバドミントン部顧問の龍頭先生に厚く御礼申し上げます。



修了生の言葉

青春のすべて

機械・電気システム工学専攻2年 池田 宗久

“青春のすべて”このタイトルはあるバンドの曲のタイトルをそのまま採用させていただきました。卒業する今この曲を聴くと、とても眩しくて青くて切ないそんな時代が私にもあったのかとしみじみします。もう年ですかね…。そんな私にとって、“青春のすべて”は久留米高専で過ごした7年間の学校生活です。今、振り返ってみると私の学校生活はうまくいかないことが多かったと思います。本科5年生の進路選択では、第1希望の進路に進むことができずに渋々専攻科に進学することにしました。細かいことを挙げていくと、研究室やインターンシップ先なども第1希望は通らずその他の選択肢から選びました。しかし、今では後悔はなくむしろその道に進んで良かったとすら思います。結局、自分次第です。たとえ、自分が望んだ通りに人生がうまくいなくても気合と努力で何とでもなります。私は、そのことを7年間の学生生活で学びました。なので、何事にもあきらめず目標に向かって最後までやり抜いてほしいと思います。

専攻科で過ごした2年間は、あっという間に過ぎていきました。というよりやることが多くて時間に追われていました。その中で今やるべきことは今しかできないことだということを感じました。振り返ると学生のうちにやっておきたかったことが全然できなかったのもっといろんなことを経験しておきたかったと後悔しています。ですから、後輩の皆さんには今やるべきこと、今しかできないことにどんどん挑戦して素敵な高専生活を過ごしてほしいと思います。高専はとても特殊な環境です。高専の常識は普通の社会には通用しません。自分の価値観、社会観を広げるためにも進んで行動を起こすことを推奨します。

最後に、いろんな出会い、経験、失敗があって今の私があります。ここまで成長できたのは周りの方々の支えがあったからです。制御情報工学科の先生の方々、専攻科研究で熱心にご指導頂いた池田先生に厚く感謝申し上げます。また、ともに7年間過ごした同期の皆さん。みんなのおかげで充実した学校生活を謳歌することができました。これから別々の道を歩みます。それぞれの道の先で成長したみなさんにまた会える日を楽しみにしています。

選択肢を作ること

物質工学専攻2年 新田 寛和

16になる春に入学して早7年が経とうとしていることに対し、「やっとか」という気持ちと「早かったな」という気持ちの両方が混在しています。皆さんは普通とは違う高専というこの学校への入学を決めた際、多かれ少なかれ悩んだのではないのでしょうか。中学を卒業して周りの人と違う道を選択することに不安を感じたかもしれませんし、これで良かったのかと今でも思っている人もいるかもしれません。

高専に入ったことを後悔していますか？周りからさく高校・大学生活と比べると、思い描いていた学校生活と違う、勉強が追いつかない、しんどい等色々あるかと思いますが、無駄なことなど何一つありません。よく言われることですが、そのことをこの7年間で初めて実感しました。

予餞会

予餞会を終えて 予餞会実行委員会委員長
制御情報工学科5年 川寄 靖広

僕は本科3年までロボコン部に所属していました。当時万年初戦敗退だったロボコン部は何かと風当たりが強く馬鹿にされることも多く、何度も悔しい思いを味わいました。しかし、そこで培った技術や発想力が本科5年、専攻科の研究において試料物性の測定法や治具の改良や閃きにつながり、大いに役立ちました。身に付けたときはそれが将来どう役に立つのか分かりませんでしたが、その時になって初めて、やっておいてよかったと思いました。もしかしたら皆さんの中には、今やっている勉強や部活、選んだ進路に対して後悔している人がいるかもしれません。将来どう役立つのか分からないことに、一生懸命やっても意味がないのではないかと思うことがあるかもしれません。

「人生は選択の連続である」という言葉があります。選択によって、その人の人生が作られていくのだと。高専に入って僕が思ったことは、ひとつひとつの選択も大切ですが、「選択肢」を増やすことも同じくらい大切であるということです。何かを選択する際、そもそもの選択肢が無ければ判断はできないからです。僕が選んだロボコン部で身に付けたものは、研究の問題解決をする際に立派な選択肢を与えてくれました。皆さんが今身に付けようとしているもの、一それは知識や技術といったツールかもしれませんが、体力や身体能力かもしれません。これはからの人生において、必ず選択肢を与えてくれるでしょう。選択肢が全く無いことは、「選択する自由」が無いことと同じです。自由な校風のこの学校で、己の刃を磨き、この自由を掴み取って欲しいと願います。

退職教職員からの言葉

「久留米高専の思い出」

総務課 西村 尚子

私は昭和48年3月会計課に採用、平成27年3月定年退職、その後2年間の再雇用と、併せて44年間、正に人生の半分以上を久留米高専で勤めさせていただきました。大過なく定年、再雇用まで勤めることができましたのも皆様のご指導、ご厚情の賜と深く感謝しております。



久留米高専44年間の約半数は学科事務室での勤務でした。当時は各学科に事務室があり、材料工学科に13年、電気電子工学科に9年間、先生方の事務補助や学生さんの就職のお手伝い等、また昼休みになれば毎日のように体育館でバドミントンをしていたのを懐かしく思い出されます。両学科とも当時をご存知の先生も数名になりましたが、大変お世話になりました。

学科事務室が廃止になり、高専も法人化され、教育機関の本丸とも言える学生課での3年間は貴重な経験となりました。

また最近は体調を崩し、皆様に大変ご迷惑を掛けてしまい本当に申し訳なく思っています。

数年前から昼休みに筑後川の河川敷や堤防を散歩しています。遠くに脊振山の山並み、眼下には宝満川の川面、四季折々の風景は気持ちをリフレッシュしてくれます。このような自然に恵まれた環境の久留米高専で44年も勤務できたことに感謝です。

最後に皆様のご健勝とご活躍、そして久留米高専の益々の発展を祈念し、お別れの言葉といたします。

44年間本当にありがとうございました。

先日、一月二十八日（土）第一体育館にて予餞会が開催されました。事前の告知として学生の愛する先生の顔はパネル型の看板や、ポスター、某SNSなどを用いた結果として学年末ではありましたが、例年以上の人が集まりました。予餞会とはそもそも五年生を送る会のようなもので、熱いバンド演奏や実行委員会の考案した「ベジたべる？」という野菜をおいしく楽しくいただくイベントなどで会場は大きな盛り上がりを見せました。その中でも今年は「五年生コンテスト」が目玉イベントとして行われました。各学科、久留米高専らしい創造性とユーモアを兼ね備えた素晴らしいパフォーマンスだったのではないのでしょうか。多くの学生が一つのものに集まって楽しんでいる姿から十一月の高専祭が彷彿とされました。終盤には、各学科の五年生の担任の先生からのメッセージと、思い出の写真を合わせたビデオレターの上映が行われました。普段、関わる中では感じる機会が中々ない担任の先生の想いやぶっちゃけ話などを聞くことができました。五年生としては、楽しさや寂しさ、様々な感情を抱き五年間の生活を振り返るよい機会になったのではないかと思います。

私は実行委員会に所属していたからかもしれませんが、こういった学生行事にはなるべく多くの学生が参加するべきだと考えています。部活で忙しい学生、勉強で忙しい学生、遊ぶことで忙しい学生、少数でしょうか？恋する学生、様々な個人個人の事情を持った学生が一同に会することができる唯一の機会、様々な人と関わる中に人としての成長というものがあると思うためです。先輩面してすいませんが、ぜひとも、後輩のみなさん、何がそれにあたるかは分かりませんが、素敵な学校にしていってください。50数年分の高専健児たちが応援していることでしょう。

最後にありきたりではありますが、教職員のみなさま、保護者のみなさま、そして学生のみなさまに心から敬意を表したいと思います。そして五年間素晴らしい時間を過ごさせていただき、本当にありがとうございました。

ここで過ごした時間はすべて色あせることなく私の大切な思い出となっていくでしょう。〇〇にあなたの名前を入れてください。

「〇〇！〇〇！〇〇！」

「かまえる！」

「押忍！」

「高専健児、元気あるか？」

「押忍！押忍！押忍！」

ありがとうございました。

それでは、散。

学生寮の行事報告

寮の行事報告

寮生会広報委員長
機械工学科4年 山下 大晴

冬の寮祭

12月10日（土曜日）、冬の寮祭が開催されました。筑水寮とつつじ寮から、外国人留学生を含めて約150名の寮生が参加しました。寮生たちは、午後から近くのボーリング場へ移動し、ボーリングをして楽しく汗を流した後、寮に戻って夕方からバーベキューを楽しみました。春に入寮した一年生たちも寮に慣れ、上級生と仲良くなった様で、寮生たちの表情は総じて春より明るく見えました。



餅つき

12月17日（土曜日）、学生寮にて餅つきが行われました。文化委員長の猪口君（電気電子工学科4年）を中心として、午前中から行いました。参加した下級生や留学生は慣れない手つきで餅つきを楽しみました。できたお餅は昼食のときにみんなで食べました。寮生たちはつきたてのお餅をおいしそうに食べていました。



成人式

1月11日（水曜日）17時45分、学生寮食堂にて、成人式が行われました。今年度は、29名の寮生が新成人となり、寮生がそろって祝いました。寮生を代表して現寮長の合屋佑哉君（機械工学科4年）が祝辞を述べ、新成人の篠崎瑛郷君（電気電子工学科、前年度の寮長）が謝辞を述べました。石丸良平寮務主事から新成人に向け、お祝いと激励の言葉が述べられた後、新成人を交えていつもより少し豪華な食事を寮生みんなで楽しみました。

成人式の最後には寮生総会があり、次年度の新寮長を決めるための選挙が行われました。選挙の結果、中川和君（材料工学科3年）が新寮長に決まりました。寮がますます良くなることを期待したいです。



クラスマッチ

後期クラスマッチ

中央執行委員会体育局
生物応用化学科3年 森 虎之助

寒さが厳しくなってくる12月の14、15日、その寒さをものとしめない元気な学生たちにより後期クラスマッチが行われました。今年は残念ながら一日目から天候に恵まれず、サッカーが中止となり、バレー、女子バレー、バスケ、女子ドッジ、長縄の五種目となりました。

それでは、結果を発表したいと思います。

バスケは同学年同士で行われる競技なので体格や体力に大差はなく、どの学年も最後まで頑張っていました。1年生は1位電気2位制御、2年生は1位化学2位材料、3年生は1位機械2位化学、4年生は1位機械2位電気、5年生は1位電気2位機械、という結果になりました。

バレーは1位4年材料、2位4年制御となり、前期優勝の4年制御科を4年材料科が破る熱い戦いが見られました。

女子バレーは共役酸C、女子ドッジは3 A女子と、どちらも三年生が中心となったチームが優勝しました。どちらも男子の多い競技にはない華やかさがあがり盛りました。

今回は前期と比べ女子ハンドの対象から各部活動の現役生をのぞいて行いました。しかし、この新ルールはバスケでは女子と男子の体格差が大きいため、ハンドがないと厳しいという意見をいただきました、さらにバレーでは男子の部活動生にもハンドを付けるべきではないかとの意見もいただきました。次回はこれらの点を踏まえ、全員が楽しめるよう努力していきたいと思っています。



ハノイ大学で行われた 研究発表会について

機械・電気システム工学専攻 1年 川波 稜

私は12月19日から23日の5日間、ベトナムのハノイ大学で行われた研究発表会に参加しました。本プログラムは英語力向上とハノイ大学との学術交流を目的に九州の9高専間で行われているもので、今年度は九州の他高専と久留米高専を合わせて十数名の学生が参加しています。一日目は移動のため韓国の仁川空港経由でハノイ空港へ向かい、ハノイ大学敷地内にある学生寮に宿泊しました。二日目にはハノイ大学の学生との交流プログラムがあり、ダンスやゲームなどの催し物がありました。私たちは熊本高専の提案で急遽『くまモン体操』をすることになったのですが、くまモンのお面を被り踊らされ非常に恥ずかしい思いをしました。また、夜には交流プログラムを通して仲良くなったハノイ大学の学生にハノイ観光へ連れて行って貰うことができました。原付バイク、車の交通量がものすごく、それだけでも恐ろしいのですが、何より驚いたのは歩行者がその中を横断していたことです。信号も何もない中、平気で横断する現地の人を見ていると日本にいる自分が平和ボケしていたことに気づかされました。三日目に研究発表会があり、いくつかのグループに分かれて行われました。発表はもちろん英語で行われます。私は学校で研究している、画像内の自転車を検出するための手法について発表を行いました。10分間という短い時間の中で自分の言いたいことを英語で伝えるのは難しく、発表の前日はギリギリまで構成を考えていたため、本番では正直かなり緊張しましたが、なんとか発表を終えることができました。発表の後ハノイ大学の学生や教員の方々からいくつかの質問があり、自分の発表内容がきちんと伝わっていたと確認できた時には非常に嬉しく思いましたし、自信になりました。同時に、発表することを通して英語を話すことに対する抵抗が無くなったことが今回のプログラムでの何よりの収穫でした。私自身、初めての海外渡航で不安もありましたが、くまモン体操のおかげもあり無事帰国することができ、実りのある研究発表会になったと思います。



UTP-KOSEN国際シンポジウムへ 参加して感じたこと

物質工学専攻 1年 小柳海人

今回、私はUTP(ペトロナス工科大学)で開催されたUTP-KOSEN国際シンポジウムに1月16日～1月20日の間で参加しました。UTPは1997年設立のペトロナス(国営の石油ガス会社)が100%出資している工科大学です。この国際シンポジウムは九州沖縄地区の9高専連携事業の一つであり、英語による発表やコミュニケーションスキルを通して、グローバル化社会に対応できることは何かを学び、国際的に活躍できる人材を育成することを目的に今年初めて開催されたものです。

国際シンポジウムでの内容は、UTPと各高専の学生が各自で行っている研究やインターンシップ等の体験を口頭やポスターにて発表するというものでした。UTPの学生の研究は私たちが卒業研究として扱うような題材とは少し異なり、「こんなものがあったら社会に貢献できるのでは?」というような機器等を創作する研究がメインであり、どれも非常に興味深いものばかりでした。また、普段は聞けないような高専やUTPの先生方の講演もあり、大変勉強になりました。

今回の行事の目的は国際シンポジウムでの講演だけではなく、学生間の交流を通じたコミュニケーション力向上やクアラルンプール市内散策を通じた異文化理解でした。交流会では伝統楽器の演奏や民族舞踊の披露もあり、実際に伝統楽器に触れさせていただくこともでき、勉学からは離れた貴重な交流会でした。

国際シンポジウムに参加して一番痛感したのが自分の英語力不足です。スピーキングは相手の高い語学力とニュアンスでカバーして聞いてくれたのですが、私自身の聴解能力不足から会話がなかなか持続しないことが多くありました。それでもUTPの人達の優しさからどうにか楽しい時間を過ごせました。この体験はコミュニケーションスキルを本格的に身につけないといけないと感じた点では私にとって非常に良い機会となりました。ぜひ皆さんもこのような機会があれば積極的に参加してみてもはどうでしょうか?



久留米スポーツ奨励賞

久留米市スポーツ奨励賞受賞について

バレーボール部副部長
制御情報工学科4年 平嶋 莉奈

私は2月22日に開催された「久留米市スポーツ奨励賞・ジュニアスポーツ賞表彰式」に、久留米高専女子バレーボール部の代表の一人として参加しました。表彰式には私達他に、柔道や水泳、ラグビー、弓道、野球、ドッジボール、自転車、カヌーなど様々なスポーツで、全国大会優勝など優秀な成績を修めた高校生や中学生、ジュニアスポーツクラブチームの選手が参加していました。

私達は去年の全国高専大会での優勝が初めてだったので、表彰式に参加させていただいたのも今年が初めてでした。たくさんの表彰者の方々を見て、こんなに若くて優秀な選手がこの地域にはいるのだと、とても驚きました。2019年にはラグビーワールドカップ、そして2020年にはオリンピックが日本で開催されます。その時代のスポーツ界を引っ張っていくのは私達の世代なんだと、表彰式に参加している小学生から高校生までの選手を見て強く感じました。

また、今までは地域のスポーツの発展についてなどほとんど考えることはありませんでしたが、この表彰式に参加してから、私達の功績も久留米市のスポーツの発展に繋がっているのだと考えられるようになりました。

いろんな競技で同じ久留米市の人達が頑張っていることを改めて知ることができ、私達はとてもいい刺激を受けることが出来ました。来年もまた、式に呼んでいただければ、これからの練習をひとつひとつ取り組んでいきたいと思います。



パソコン甲子園

パソコン甲子園

制御情報工学科3年 前田 南樹

会津大学主催のパソコン甲子園に参加しました。この大会は、2人一組でチームを組んで問題を解く能力を競う競技プログラミングの大会で、高校生を対象としています。僕は3回目の参加で、去年に引き続き、同じ制御情報工学科3年の菅野君とチーム「LastDiv」として参加しました。

パソコン甲子園は、予選、本選の2段階から構成されています。まずは予選がオンラインで行われ、予選で成績が優秀だった20チーム程度が本選に招待されます。本選は会津大学で開催されます。

今年の予選には、43都道府県から642チームが参加しました。予選は、3時間で10問の問題を解く形式です。初等的な問題が大半ですが、後半の問題はそれぞれ難易度が高い印象です。僕たちのチームは、予選を全問正解し、全国1位で通過しました。

本選には、予選を勝ち抜いた24チームが招待されました。今年の本選は、12問の問題を4時間で解く形式でした。前半の問題は例年通り典型的なアルゴリズムを実装するだけで解ける内容でしたが、後半の問題は例年より質が良く、これらの問題に取り組む時間は非常に有意義なものでした。結果は5位で、入賞は逃しましたが、実力は出し切れたように思います。

今回のパソコン甲子園が、高校生として参加する最後の大会となりました。高専に入学して競技プログラミングを初めて以来、上位陣との実力の差に限りが見えず、言いようのない不安と恐怖にとらわれて生きてきたような気がします。それでも競技プログラミングを続けていくことができたのは、結局のところ、競技プログラミング、ひいては計算機科学の分野が好きだったからだと思います。無我夢中で勉強と練習をしているうちにいつの間にか3年が過ぎ、周囲から上級者と呼ばれ、界限における自分の立ち位置が見えてきました。これからは大学生と同じ立場で、ICPC(国際大学対抗プログラミングコンテスト)などに参加していく予定です。ICPCでは、高専を卒業して大学に編入したOB・OGたちとも戦うことになるかと思いますが、久留米高専の名を上位に刻めるように、取り組んでいきたいと思っています。



Hack Day 2017

HackU2016福岡とHackDay 2017に参加して

プログラミングラボ部前部長
制御情報工学科3年 菅野 暁

HackU2016 福岡は、Yahoo 主催の学生向けハッカソンです。ハッカソンとは、プログラマー・デザイナーから成るチームが、数時間～数週間ほどの開発期間で作品を制作し競い合うイベントです。

僕は同じ部活の人とチームを組み、チーム「null むーちょ」として HackU2016 福岡に参加しました。僕以外のチームメンバーは、制御情報工学科4年生山村大介先輩、2年生江草亮太さん、岸川拓磨さん、近藤華さん、平塚蒼志さんです。

作ったスマホのアプリ「和みなしゅれ」は、人の会話から単語を抜き出してそれに関連する短いダジャレを自動で生成するというものです。場の雰囲気や和ませることが出来るという意味で命名しましたが、実際にはパーティグッズのようなものに近いです。開発期間が短いためそれぞれの出来ることから役割分担を決め、山村先輩にアプリの見た目、江草君に会話の音声処理とアプリ全体の統合作業、岸川君にサーバー内のプログラム、近藤さんと平塚君に発表スライドの制作、平塚君に本番の発表をやっていただき、僕はプロジェクトマネージャーとダジャレ生成を担当しました。

しかし、HackUでの開発は非常に反省点の多いものとなりました。僕自身の計画性の無さやダジャレ生成の難航があり、締め切り2,3日前になるまでほとんど進まなかったのです。結局アプリが完成しきらなかったにも関わらず、優秀なスライドと平塚君のユーモアな発表のおかげで最優秀賞を取ることができました。そして全国規模で行われるハッカソン HackDay2017 に招待されることとなりました。余談ですが、チーム名通り、山村先輩は大遅刻により表彰時に会場にいませんでした。

HackDay では完成しなかった「和みなしゅれ」を改良したものを制作することにしたのですが、なんと開発期間がたった24時間しかありませんでした。その上直接アプリを作れるPCが2台しかなかったことや、開発中にその片方のPCが不具合を起こしたことで、ここでも非常に苦しい開発となりました。

HackDay の発表本番は HackU とは規模が異なりプレッシャーも大きく、僕のダジャレ生成プログラムが本番でちゃんと動いたダジャレが作れなかった(一般的でない名詞をダジャレに使ってしまい、理解してもらえなかった)というのもあり、残念ながらうまくアプリの面白さを伝えることができませんでした。

僕がこれらのイベントで学んだことは、自分を過信せず人に任せるべきであるということです。自分の力不足を認めて頼ってれば、もっとチームメンバーの頑張りを生かしたかもしれません。この反省を今後に活かし、部の後輩に何か残せるように精進していきたいと思います。



日本数学コンクール論文賞 (名古屋大学主催) 銅賞を受賞して

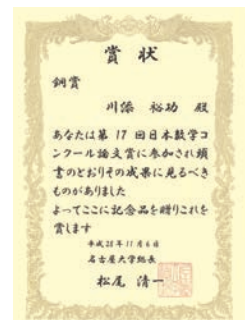
制御情報工学科1年 川添 裕功

名古屋大学が、全国の中学・高校生対象に数学の問題を提示してその解答を募るコンクールに応募しました。今年の問題(の一つ)は次でした。

問題. いくつかの平方数の逆数の和が一つの平方数の逆数になるような組合せをできるだけ多く見つけよ。

この問題に対して、 $1/225 + 1/400 = 1/144$, $1/9 + 1/9 + 1/36 = 1/4$, $1/49 + 1/196 + 1/441 = 1/36$ などの答といくつかのパターンを見つけました。

正解がない数学の問題を考えるのは難しいけれど面白いと思いました。



入賞論文「円周率 π の計算」

生物応用化学科1年 古澤 聖太

円周率 π に興味をもっていたので計算しました。

まずは半径1の円を考えて

(円に内接する正 n 角形の面積) < (円の面積 $=\pi$) < (円に外接する正 n 角形の面積)

をもとに

$$\frac{n}{2} \sin \frac{360^\circ}{n} < \pi < n \tan \frac{360^\circ}{n}$$

を計算しました。次に、直径1の円を考えて

(円に内接する正 n 角形の辺の長さ) < (円周の長さ $=\pi$) < (円に外接する正 n 角形の辺の長さ)

をもとに

$$\frac{n}{2} \sin \frac{360^\circ}{n} < \pi < n \tan \frac{360^\circ}{n}$$

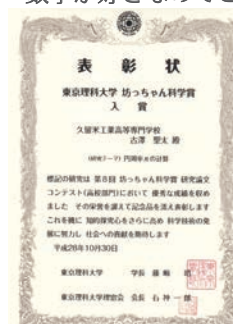
を計算しました。さらに、これらを合わせて π の近似式

$$\frac{4n}{3} \sin \frac{180^\circ}{n} - \frac{n}{6} \sin \frac{360^\circ}{n} \quad (n \text{ は整数})$$

を導きました。

$n=360$ のとき $480 \sin 0.5^\circ - 60 \sin 1^\circ = 3.141592652982478$ となって、小数点第8位まで一致します。

数学が好きなのでこれからも研究を続けたいと思います。



入賞論文「すべて異なる確率」

電気電子工学科 3 年 白水 孝始

研究のきっかけ・・・

45人クラスで、誕生日が同じ人がいる確率は約0.94で、ほとんどの場合同じ誕生日の人が1組はいることが知られている。1年は365日なのに、43人いる自分のクラスでも誕生日が同じ人達がいた。不思議に思って研究を始めた。

研究内容・・・

45人のクラス全員の誕生日が異なる確率を考える。平年の場合を考える。

2人の誕生日が異なる確率は $\frac{364}{365}$. 3人の誕生日がすべて異なる確率は $\frac{364}{365} \times \frac{363}{365}$.

同様に、45人の誕生日がすべて異なる確率は

$\frac{364}{365} \times \frac{363}{365} \times \dots \times \frac{321}{365} = 0.059024\dots$. したがって、45人クラスで同じ誕生日の人がいる確率は、

$$1 - \frac{364}{365} \times \frac{363}{365} \times \dots \times \frac{321}{365} = 1 - 0.0590\dots = 0.9409\dots$$

である。

さらに次の様に問題を発展させた。

問題. n 種類のもの（それぞれはたくさんある）から k 個を選んで、それらがすべて異なる確率を $P(n,k)$ とする。与えられた n に対して、 $P(n,k)=p$ ($0 < p < 1$) となる k の値を求めよ。

答. $k \approx \sqrt{-2n \log p}$

特に、 $P(n,k) = \frac{1}{2}$, $\frac{1}{10}$ となる k の近似値はそれぞれ、 $k \approx 1.18\sqrt{n}$, $k \approx 2.15\sqrt{n}$ となる。これが、実際の値とかなり近いことを確かめた。

感想・・・まさか受賞するとは思いませんでした。これからは数学、物理、専門科目は授業だけでなく自分で進んで考えたい。



技能検定を利用した実践的技術者教育

教育研究支援室 第1技術グループ 徳山 徹

この度、技能検定普通旋盤作業2級及び3級を受検した本校学生5名が、見事合格いたしました。2級機械加工技能士に合格した3名の学生(機械工学科4年 上野虎太郎君、材料工学科3年 村岡幸樹君、材料工学科2年 福田直也君)、3級機械加工技能士に合格した2名の学生(機械工学科3年 松永拓也君、機械工学科1年 久保山徳聖君)です。技能検定とは、「働く人々の有する技能を一定の基準により検定し、国として証明する国家検定制度」です。技能検定は、技能に対する社会一般の評価を高め、働く人々の技能と地位の向上を図ることを目的として、職業能力開発促進法に基づき実施されています。(中央職業能力協会 HP より)

技能検定の指導を始めてから5年がすぎ、初めての2級合格者が生まれたことを本当に嬉しく思います。3級が初級なのですが、2級では中級の技能者が通常有すべき技能と知識の程度となり、実務経験を有した社会人同様のレベルを求められます。2級合格は久留米高専の実践的技術者教育の成果だと思います。教育研究支援室の黒川技術長と共に、学生への技能検定指導を続けてきて、私自身、旋盤指導について多くの勉強をさせて頂きました。毎年、技能検定を受ける学生は、申込みを行った4月から9月の試験日まで、週2～3日(試験期間を除く)の練習をしながら合格を目指していくのですが、加えて今年は、厚生労働省の若年技能者人材育成支援等事業である「ものづくりマイスター派遣事業」を利用することができ、夏休みを利用した9日間の集中指導も行うことができました。集中指導は初めての試みでしたが、学生達は文句も言わずがんばってくれました。最初は時間内に終わらなかった課題も、なんとか制限時間以内に終わるようになり、万全の体制で受験できたと思います。いままで二度の技能検定普通旋盤作業二級試験にチャレンジしてきましたが、今回、三度目にして合格者を出すことで、私自身も旋盤指導に手ごたえを感じました。

この技能検定受験者指導は、平成23年度より行ってきました。目的は、将来の技術者としての「ものづくり指導」、技能の伝承におけるスタートラインに立つための基本技能の取得、技能検定(普通旋盤作業)などの資格取得への挑戦の手助けです。高専の実践的技術者教育、その成果は卒業生の活躍を見る限り確かなモノであり、疑いの余地はないのですが、一般の方々に簡単に説明するには多少の準備が必要だと思います。その点、国家資格は分かりやすい物差しです。他大学や工業高校等においては、学生の就職活動においても有利な材料となる技能検定の取得に力を入れているという話も聞き及んでいます。他の学校にできて久留米高専で出来ない理由は無いと始めてから、今回、2級合格者を出すことができたのは、毎年、技能検定にチャレンジしてくれたやる気あふれる学生たちと、当時の機械工学科桜木教授を始め、機械工学科、一般理科の先生方、担任の先生方、同僚の技術職員と沢山の久留米高専職員の協力があったことです。この場を借りて皆様にお礼申し上げます。

一般社団法人日本ゴム協会九州支部 と連携・協力に関する協定を締結 ＝久留米高専＝

久留米高専は、去る7月8日、一般社団法人日本ゴム協会九州支部との間で連携・協力に関する協定調印式を行い、協定を締結した。

この協定は、久留米高専と日本ゴム協会九州支部が地域ゴム産業の振興発展及び工業人材育成に寄与することを目的としたもので、主な連携事項として①ゴム技術者の人材育成に関すること、②地域ゴム企業に対する技術支援に関すること、③産学連携交流促進に関することを掲げている。久留米高専と日本ゴム協会九州支部の間では、これまでゴムの実践技術講座を久留米高専で開催するなど協力を行ってきたが、協定締結により、より強固な連携協力が期待される。

調印式後、早速、日本ゴム協会九州支部のイベントの久留米高専での開催について協議を行った。

久留米商工会議所と連携・協力に 関する協定を締結 ＝久留米高専＝

久留米高専は、去る12月21日、久留米商工会議所との間で連携・協力に関する協定調印式を行い、協定を締結した。

この協定は、久留米の地域産業振興発展及びものづくり人材育成に寄与することを目的としたもので、主な連携事項として①地域産業の振興及び地域活性化に関すること②地域の産学連携交流促進に関すること③地域企業との共同研究及び受託研究等の連絡調整に関すること④地域の発展に寄与するものづくり人材の育成に関することを掲げている。

久留米高専と久留米商工会議所の間では、様々な連携が図られてきたが、今回の協定締結により、より強固な連携協力が期待される。

連携・協力に関する協定調印式



連携・協力に関する協定調印式



平成29年度 学 年 暦

前 期

4 月			5 月			6 月			7 月			8 月			9 月		
日	曜		日	曜		日	曜		日	曜		日	曜		日	曜	
1	土	春季休業(～4/6)	1	月		1	木		1	土		1	火		1	金	授業開始
2	日		2	火		2	金		2	日		2	水		2	土	3高専合同学校説明会(佐賀)
3	月		3	水	憲法記念日	3	土		3	月		3	木		3	日	
4	火		4	木	みどりの日	4	日		4	火		4	金		4	月	
5	水	開寮(10:00)	5	金	子供の日	5	月	中間試験(～6/9)*	5	水		5	土		5	火	
6	木	入学式	6	土		6	火		6	木		6	日		6	水	全校集会(専攻科生除く、14:40～)
7	金	始業式、オリエンテーション、 クラス写真撮影、 4、5年・専攻科健康診断	7	日		7	水		7	金		7	月		7	木	
8	土		8	月		8	木		8	土	九州沖縄地区高専体育大会	8	火		8	金	
9	日		9	火		9	金		9	日		9	水		9	土	
10	月	前期授業開始 1～3年定期健康診断(午後)	10	水	学生大会	10	土		10	月		10	木		10	日	
11	火		11	木		11	日		11	火		11	金	山の日	11	月	前期授業終了
12	水		12	金		12	月		12	水		12	土		12	火	前期末試験(～9/21、7日間)
13	木		13	土		13	火		13	木		13	日		13	水	
14	金		14	日	体験入寮(5/14～5/21)	14	水		14	金	本科、専攻科授業なし 九州沖縄地区高専体育大会	14	月		14	木	
15	土	TOEIC IPテスト	15	月	午後クラスマッチ(本科午前中に 午後の授業、午後授業なし)*	15	木		15	土		15	火		15	金	
16	日		16	火	クラスマッチ(本科授業なし)*	16	金		16	日		16	水		16	土	
17	月	公開授業	17	水	防災総合訓練	17	土	専攻科入学試験(前期)	17	月	海の日	17	木	一日体験入学	17	日	
18	火	開校記念日	18	木		18	日		18	火		18	金		18	月	敬老の日
19	水	ケータイ安全教室	19	金		19	月		19	水		19	土		19	火	
20	木		20	土		20	火		20	木		20	日		20	水	
21	金		21	日		21	水	英語外部評価テスト(3年生)	21	金	九州沖縄地区高専体育大会 (野球 予備日を含む。～7/24)	21	月	一斉休業日(特別休暇)	21	木	
22	土		22	月		22	木		22	土	夏季休業(～8/31)開寮(14:00)	22	火		22	金	特別教育期間(9/22～9/29)
23	日		23	火		23	金		23	日		23	水		23	土	秋分の日
24	月		24	水		24	土	文化部発表会	24	月		24	木		24	日	福岡3高専合同学校説明会(福岡)
25	火		25	木		25	日		25	火		25	金	一斉休業日(振替)	25	月	
26	水		26	金		26	月		26	水		26	土		26	火	
27	木		27	土	後援会総会・保護者懇談会	27	火		27	木		27	日		27	水	工場見学旅行(4年、9/25～9/29)
28	金	1年生合宿研修(4/28、29)	28	日		28	水		28	金		28	月	一斉休業日(振替)	28	木	
29	土	昭和の日	29	月		29	木		29	土		29	火		29	金	
30	日		30	火		30	金		30	日		30	水		30	土	
31	月		31	水		31	土		31	月		31	木	開寮(10:00)			
新入生合宿研修を受講時数として取扱う 始業式日に新入生は数学診断テスト、 英語外部評価テスト 10日午後:1～3年授業なし			* 専攻科平常授業			* 専攻科平常授業			14日 授業休業 西日本地区高専弓道大会(未定) 西日本地区高専空手道大会(未定) 九州沖縄地区高専体育大会 ネットワーク切替(未定)			全国高専体育大会(夏季)(未定) 英語弁論大会(未定)			専攻科サマーレクチャー(9/25～9/29) 専攻科インターンシップ報告会(未定) 教職員健康診断(未定)		

平成29年度 学 年 暦

後 期

10 月			11 月			12 月			1 月			2 月			3 月		
日	曜		日	曜		日	曜		日	曜		日	曜		日	曜	
1	日		1	水	高専祭準備、高専祭期間中 本科、専攻科授業なし	1	金		1	月	元 日	1	木		1	木	当月退寮者開寮(14:00)
2	月	後期授業開始	2	木	高専祭(前夜祭)	2	土		2	火		2	金		2	金	本科1～4年成績締切
3	火		3	金	文化の日 高専祭(文化祭)	3	日	全国高専ロボットコンテスト	3	水		3	土		3	土	
4	水	暴力団排除教育	4	土		4	月		4	木	一斉休業日(振替)	4	日		4	日	
5	木		5	日	高専祭(体育祭)	5	火		5	月	仕事始め	5	月		5	月	終業式
6	金	前期定期試験成績締切	6	月	後片付け	6	水		6	土		6	火		6	火	卒業査定 開寮
7	土	専攻科(後期)入試	7	火	月曜日授業	7	木		7	日		7	水		7	水	
8	日	全国高専プログラミングコンテスト (～10/9)	8	水		8	金		8	月	成人の日 開寮	8	木	後期授業終了	8	木	
9	月	体育の日	9	木		9	土		9	火	後期授業再開	9	金	後期定期試験 (5年5日間、1～4年7日)	9	金	
10	火		10	金		10	日		10	水	全校集会(専攻科生除く、14:40～)	10	土		10	土	
11	水		11	土	学校説明会	11	月		11	木	学習到達度試験(数学・物理)(3年)	11	日	建国記念の日	11	日	
12	木		12	日		12	火	午後クラスマッチ(本科午後授業なし)*	12	金		12	月	振替休日	12	月	
13	金		13	月		13	水	クラスマッチ(本科授業なし)*	13	土		13	火		13	火	
14	土	学校説明会・見学会(久留米)	14	火		14	木		14	日		14	水		14	水	
15	日		15	水		15	金		15	月		15	木		15	木	卒業式、修了式
16	月		16	木		16	土		16	火		16	金		16	金	学年末休業(～3/31)
17	火		17	金		17	日		17	水		17	土		17	土	
18	水		18	土		18	月		18	木		18	日	入学者選抜(学力)	18	日	
19	木		19	日	TOEIC 公開テスト	19	火		19	金		19	月	入試業務のため休校 5年特別教育期間(～3/15)	19	月	及落着定
20	金		20	月		20	水		20	土	入学者選抜(推薦)	20	火	専攻科2年修了査定(予定)	20	火	
21	土		21	火		21	木		21	日		21	水		21	水	春分の日
22	日		22	水		22	金		22	月		22	木	1～4年特別教育期間(～3/15)	22	木	
23	月	入試説明懇談会(久留米)	23	木	勤労感謝の日	23	土	天皇誕生日 冬季休業(～1/8) 開寮(14:00)	23	火		23	金		23	金	
24	火	" (福岡)	24	金		24	日		24	水		24	土		24	土	
25	水	" (佐賀)	25	土	編入学試験	25	月		25	木		25	日		25	日	
26	木		26	日		26	火		26	金		26	月		26	月	
27	金		27	月	中間試験(～12/1)*	27	水	仕事納め	27	土	予餞会	27	火		27	火	
28	土		28	火		28	木	一斉休業日(振替)	28	日	TOEIC 公開テスト	28	水	5年成績締切	28	水	
29	日	九州沖縄地区高専ロボットコンテスト	29	水		29	金		29	月		29	木		29	木	
30	月		30	木		30	土		30	火					30	金	
31	火		31	日		31	月		31	水					31	土	
1月～3月の日程は後日審議			* 専攻科平常授業 学生大会(未定) 九州沖縄地区高専フォーラム(未定)			全国高専体育大会(冬季)カテゴリー(未定) 高専シンポジウム(未定) 全国高専英語プレゼンコンテスト(未定) 専攻科研究論文発表会(未定)			特別教育期間には追試験、卒研試験を含む 専攻科2年成績締切			高専生のための合同会社説明会(未定) 専攻科1年研究基礎発表会 専攻科1年成績締切(研究基礎除く) 専攻科研究基礎成績締切 次年度春季休業、入学式、始業式は後日審議					